

2011.October



今号の内容

**特集!! 東日本大震災** 災害における  
教師の役割  
とは

東日本大震災に寄せる学長メッセージ  
震災ボランティア学生からのコメント  
被災地の教育現場の現状は!?

四国インカレ  
写真記録

鳴門教育大学  
30周年記念行事

国際交流 ほか  
留学生たちのレポート

学園だより

GAKUENDAYORI

特集 東日本大震災	1
東日本大震災に思うこと	学長 田中 雄三
学内での支援活動	
ボランティア活動体験談	
石巻かもめ学園でのボランティア体験	吉田 壮佑
伝えていくために	高橋 春生
今の私にできること	犬塚 実敏
被災地支援ボランティアに参加して	森脇 菜穂
東日本大震災の被災地支援に携わって	基礎・臨床系教育部 小倉 正義
災害における教師の役割とは	基礎・臨床系教育部 阪根 健二
もうすぐ大学祭「高島の28(つわ)ものたちよ、笑顔を咲かせてぼほぼほーん!!」	6
熱戦 第62回四国地区大学総合体育大会	8
課外活動～サークル紹介～	12
アカペラ同好会	千葉 晃平
WFC	渡辺 到
課外活動News	13
鳴門教育大学は創立30周年を迎えました	14
学生会・院生会だより	16
30周年おめでとうございます	学生会会長 吉浦 早紀
記念すべき年に	院生会会長 中村 竜介
健康手帳「飲酒と健康の諸問題」	心身健康センター所長 廣瀬 政雄
ようこそ鳴門へ～新任教職員の横顔～	18
小島 明子, 阿形 恒秀, 石坂 広樹, 坂井 武司, 端村 達也, 田村 和之	
こんにちはは附属です	20
子どもたちの心をはぐくむ野外学習	附属小学校 加藤 由恵
近隣保育園児と共に避難訓練	附属中学校 大泉 計
本校の運動会について	附属特別支援学校 郡 俊恵
ゆうべのつどい・宿泊保育を経験して	附属幼稚園 松尾 剛志
国際交流	22
台北市立教育大学表敬訪問と日本留学フェア参加記	
人文・社会系教育部	伊東 治己
自然・生活系教育部	宮下 晃一
留学体験記ータイ王国 コンケン大学留学報告ー	
吉住 晃	
鳴門の秘宝	Chinomba Enoch
平成23年度外国人留学生現員表	
なるきょう通信 -大学からのお知らせ-	28
社会規範について	
附属図書館特別展示「描かれた近世阿波の風景」	
環境活動(エコアクション21) -省エネルギー対策元年(H23年度)-	29
学生相談窓口案内	30
行事予定	31
編集後記	31
表紙デザイン/芸術系コース(美術) 准教授 内藤 隆 (芸術・健康系教育部)	表紙題字/初代学長 前田嘉明

## 東日本大震災に思うこと

◆ 学長 田中雄三

学園だよりの編集者から、東日本大震災について原稿依頼があったとき、心の中にざわっとした抵抗があった。未曾有の災害を受けた人々のことを思うと、とても现阶段で、私が何か言語化できるようなことはないと思ったからである。大学としては大震災以来、募金活動、生活物資の支援、ボランティア活動などできる限りの支援活動を行っている。今後とも長期にわたって支援活動を続けていくことが日本人の務めだと思う。

人間存在の不条理について、深く思索し、小説をものしたのはフランツ・カフカ（1883 - 1924）ではなかろうか。震災で亡くなった人たちは、「何故私はこのような突発的災害で命を奪われねばならないのか、不公平ではないのか、不条理ではないのか」と憤りと悲しみで胸が塞がれる思いではないのか。子ども達は人生の何たるかも知らず、青年はこれからの人生の希望を遮断され、成人は充実した人生を失い、老人は安寧な老後を奪われた。みんな、「これは不条理である」と怒りと悲しみに震えているに違いない。私は、常々人間にとって最大の不条理は、寿命に不公平があるということだと思っている。しかし、この不公平感や怒りや悲しみはどこにも持っていきようがない。

私が子どもだった頃、世の中の怖いものは、地震、雷、火事、親父の順番であった。中学1年の時に、日本という国が多く地震帯や火山帯の上に存在していることを教えられ、怖くて仕方がなかったことを覚えている。青年期特有の兆候優位性の故だけではなかったと思う。地震帯の上に住んでいることの恐怖は、長ずるに及んでいつの間にか薄れていた。

昭和18年に鳥取大震災（私の出身は鳥取）があったと聞いているが、記憶は朧気で、母の背に負われて裏山に逃げたというのは、記憶錯誤かあるいは捏造であろう。昭和27年には鳥取大火災があったが、私の家は郊外にあったので類焼をまぬがれた。翌日、まだくすぶっている山の上で焦土になった街を見下ろし、呆然となった記憶がある。こちらの記憶は鮮明だ。

長く生きていけば、それだけ危機に遭遇する確率は高まると思われるが、危機は平等に訪れるわけではない。むしろ偏りがあるのではないかとさえ思う。少年だった頃、2年半サナトリウムでの生活を余儀なくされた。2度の肺切除術で左肺の三分の二を失ったが、手術の数日後に手鏡で窓の外を見た。手鏡の中の光に輝いた緑の木々や草木が、目に痛いほど鮮明に焼き付き、生き延びたことを実感した。同時にまた、不運にも術中死した青年の顔が浮かんだ。私ではなく、何故、彼だったのだろうか。

爾来、世界は「不条理に満ちている」という考えは、私の思考の中核から離れない。

人間存在の常とはいえ、東日本大震災で亡くなられた人々、被災された人々は不条理の中にある。先般、某受験雑誌社から依頼があり、日本の将来を担う被災地の少年達に向け、次のようなメッセージを色紙に書いて贈った。平凡ではあるが、直球を投げた。少年達のミットに届いただろうか。

「いつでも、どこでも、学ぶ意欲と志向性をもって生きて下さい」。

## 本学での支援活動

学外での募金活動等に参加した方も多いと思いますが、ここでは、学内で行われた支援活動の一部をご紹介します。

被災地域の方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

## ＜3月18日 学位記授与式当日の募金活動＞



大学院生が中心となって、主に講堂前で行いました。

修了生・卒業生はじめ、保護者の方々、在学生、教職員等、大勢の方の協力を得ることができました。日本赤十字社を通じて全額146,532円を義援金として寄付しました。



## ＜3月21日 フットサル大会＞

学部生が中心となって開催した学内大会において、1ゴールにつき100円寄付というルールを設定、併せて大会参加者による募金を行い、合計10,976円を日本赤十字社を通じて義援金として寄付しました。

## ＜4月9日～13日 チャリティーバザー＞

学部学生が中心となって講義棟でチャリティーバザーを行いました。5日間の売り上げと寄付金の総額は95,169円でした。

これらの支援金で学用品を購入し、ユネスコ・スクールのネットワークを通じて、被災地の学校に送りました。



## ＜5月20日 チャリティーライブ＞

本学教員と軽音楽部の学生が、講堂でチャリティーライブ「Naruto Live Aid」を開催しました。集まった観客は出演者と一緒に盛り上がりました。入場料は無料でしたが、入り口で募金箱を設置し、集まった額110,955円を全額日本赤十字社を通じて寄付しました。



## ボランティア活動体験談

実際に被災地へ赴き活動した人のうち4人から、コメントをもらいました。

## 石巻かもめ学園でのボランティア体験

◆ 院・臨床心理士養成コース 2年 吉田 壮 佑

私は4月23日から27日(5日間)と8月1日から8日(8日間)の2度、「宮城県石巻市かもめ学園」へボランティアに行き、主に障害をかかえる子どもと関わる活動をしました。

同じ施設に2回行くと、以前はできなかったことができるようになってきている子どもたちの成長を見ることができ、感動したのを今でも覚えています。施設には、避難の際に津波で胸まで浸かった子どもや、衣食住を奪われた子どももいました。しかし、そのように心に傷を負った中でも、3か月間での成長を見ることができ、子どもの可能性を垣間見ることができました。また機会がありましたら、3度目のボランティアに行きたいと思います。

## 今の私にできること

◆ 院・自然系コース(理科) 1年 犬塚 実 敏

「私に何ができるのか。」

この答えを探すために、ボランティアへの参加を決意しました。ボランティア先で、被災者の方とお話する機会があり、「自分の目で見て、感じ取ってほしい」とのことでした。

実際の状況は、うまく言葉では表せず、震災から3か月経っていましたが、まだ前が見えないというのが私の受けた印象でした。

現在、まだうまく経験として落とし込めていないのが現実です。必死で前を向いている被災者の姿が脳裏に焼き付いていて、私が実際に携わり、見てきたことや感じたことを一人でも多くの方に伝えていくことが、今の私にできることだと考えています。

## 伝えていくために

◆ 院・人間形成コース 1年 高橋 春 生

私は、GWを利用して石巻市震災支援プロジェクトに参加してきました。

今年3月11日、私も都内で大地震を実際に経験しています。だからこそ、4月に徳島へ渡ってからも、何かできないかという思いがありました。

実際に現場に入ると、震災から2か月が経っているにも関わらず、報道されている以上に衝撃的な現実を目の当たりにしました。しかし、活動を通して微力な自分に不甲斐なさを感じつつも、この未曾有の出来事をきちんと自分の目で見たこと・感じたことは、日本人として、これから教師になるものとして大変貴重な経験になったと思っています。

一日も早い復興を心から願うばかりです。

## 被災地支援ボランティアに参加して

◆ 学部・特別支援教育専修 2年 森 脇 菜 穂

「映画の中に居るみたい。」被災から2か月経ってもプールに車が浸かっているという状況に思わずつぶやいてしまった。しかし実際に活動し、道路に車が走ったり水道を使ったりしている様子を見て、今でもここで生活しているのだと改めて実感した。

私は兵庫県からボランティアバスで被災地へ向かった。活動先では泥をかき出し土嚢袋に詰める作業を行った。力仕事なので何よりも人手が必要だと感じた。

「阪神淡路大震災から復興している前例が私たちの希望です。」という言葉を受け、前向きに頑張ることの大切さを改めて学んだ。



写真撮影・提供  
犬塚さん

## 東日本大震災の被災地支援に携わって－被災地の教育現場の現状等

◆ 基礎・臨床系教育部（臨床心理士養成コース）講師 小倉正義

東日本大震災の被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。そして、犠牲となられた方々へ深い哀悼の意を捧げます。

私は日本発達障害ネットワーク（JDD ネット、ホームページ <http://jddnet.jp/>）の専門家チームの一員として、4月6日から13日の8日間、発達障害児／者とそのご家族、関連機関の支援ニーズの確認と支援計画の作成のために宮城県・福島県を訪れました。私が被災地に赴いた頃は、まだ新幹線も飛行機も復旧していませんでしたので、夕方高速鳴門発のバスに乗り、大阪梅田で乗り継いで夜行バスで向かい、次の日の朝に仙台に到着するといった感じで現地入りしました。到着してすぐにお会いした現地の方から、「ちょうど今日くらいからガソリンスタンドに行列ができなくなりました」というお話を聞きました。その頃、仙台市内はライフラインや物流も随分と回復してきてはいましたが、それでもコンビニの品数が少なかったことを覚えています。その4月以降は被災地には出かけておらず、主に徳島にいながら後方支援という形で現在に至るまで活動してきました。

これまでに伺った話の中から教育現場に関わる話を少し記しておきます。地震が起こった時、つまり3月11日14時46分は、授業時間帯のところが多く下校に関わってくる時間帯でもありました。中学校では卒業式の前の日で1年生・2年生だけ準備のために残っていた学校もあったようです。場合によっては、家族が揃うまでかなりの時間を

要したケースもありました。ご家族を亡くされた方、教え子をたくさん亡くされた方、その他にも今回の震災は大きく様々な大変さをもって生きている方がいらっしゃいました。そのようななか、学校は地域の方のための避難所になることが多く、生徒たちの安否確認や避難所運営、新年度の準備のために先生方は、私たちからみると過剰労働だと思える状況でした。そのなかで自分たち被災していない人間の仕事は、被災された方お一人お一人ができる限り早い段階で、学校業務に専念できるようなサポートをすることかなと感じました。

そして、被災地への支援を考えるうえで忘れてはならないのは、このような大きな出来事であっても、被害状況やその受け止め方や感じ方、しんどさ、回復するスピードは人によって異なるということです。ですから教育現場でも一番大切なのが、当たり前のことのようですが一人一人の子どもをみつめることではないかと感じました。そして、それは子どもたちだけでなく、支援者である先生方にもあてはまることかと思えます。すぐに動ける先生もいれば、なかなか動き出すのがつらい先生もいるのです。大変さを一つの方向から見ると、心の溝ができてしまうかもしれません。

感じたことをつらつらと書いたのでまとまりのない文章になって申し訳ありません。みなさんにも、今自分にできることを考えて行動していただけたら幸いです。大変なときこそ、人と人の気持ちのつながりが世界を救うのだと思うのです。



## 災害における教師の役割とは

◆ 基礎・臨床系教育部（学校・学級経営コース）教授 阪根 健 二

### 1 はじめに

3月11日、三陸沖を震源に国内観測史上最大のM9.0の地震（東日本大震災）が発生した。震度7という揺れの大きさはもちろんのこと、津波によって多くの尊い人命が失われた。そして、福島原発では未曾有の大事故が発生した。このように災害や事故は連動することが多いが、これほどまでの災害や事故の連鎖は見たことがない。想定をはるかに超えた甚大な災害に対して、政府も企業も混乱し、後手に回ってしまったといえよう。

不幸にも死者や行方不明者を出してしまった学校がある一方で、教師たちの機転によって子どもたちを救えた学校もある。一体何がそれを分けたのか。今回の不幸な災害を教訓することが、亡くなられた方々に対する私たちの務めではないかと思う。

### 2 災害に遭遇したら

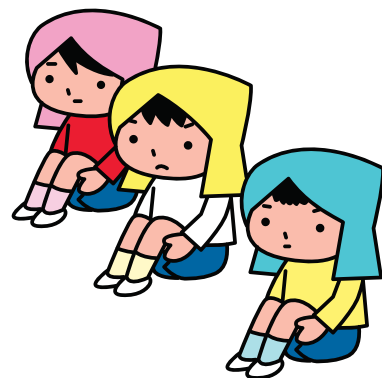
危機対応の重要なポイントは、知見や理論を元にして、実際に取り組む手法が、即座に打てるという「具現性」に意味がある。したがって、「危機管理」は、学問的な部分より、実践的な提言や手法の提示が欠かせない分野なのである。本学では、危機管理の授業を、学部・大学院双方で開設しており、受講生も多い。これは全国的に珍しく、本学の特徴の一つである。ここで、その授業で扱っている内容の一部を紹介しよう。

例えば、大きな揺れを感じた時に必要なこととは何だろうか。現在では、多くの学校は耐震化されており、そう簡単に倒壊するという事態にならないだろう。そのため、急ぎ屋外に避難するという過去の退避方法をとっていない。また、子ども

たちはすぐに机に隠れるという行動がとれる。これは、いつの間にか覚えた安全行動であり、これまでの地震においても迅速に動いていた。この安全行動は、頭部を守るという点と、動脈などの人体で弱い部分を隠すという点が重要なのである。とすれば、机などの遮蔽物がなければ、頭を抱えるしゃがみ込む姿勢を取れば、危険を少しでも回避出来る。現に保育所などの避難訓練において、筆者は「どんぐりになろう」という合言葉で指導している。

また、落下物がないか、倒れるものがないかという平時の準備が特に重要だ。こういった日常の準備こそが、実際の地震発生時には意味があるといえよう。

さらに、児童生徒の心理的なパニックを避けるための行動が必要である。教師からの的確な指示が極めて重要なのだ。「先生の言うこと聞け！」「机の脚をもって、頭を守れ！」といったことを、大声でしっかりと指示することがポイントである。これが子どもたちに安心感を与える。このように教師は、「安定」に欠かせない存在なのである。緊急時にこそ、教師の存在が必要不可欠であることを、この機会に意識して欲しい。

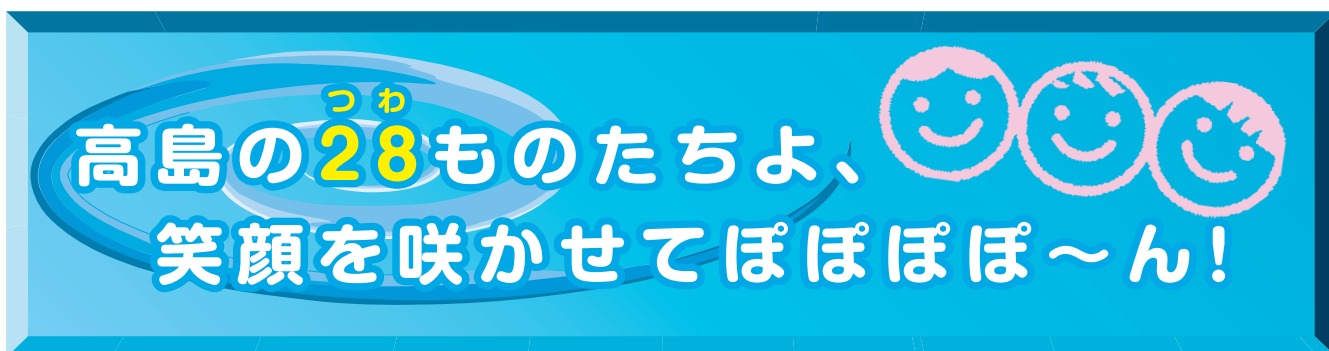


# もうすぐ 大学祭

## 高島の28ものたちよ 笑顔を咲かせてぽぽぽぽ～ん

◆ 大学祭実行委員会委員長 眞木 康成

みなさんこんにちは！このたび、第28回鳴潮祭の実行委員長を務めさせていただくことになりました眞木康成です。今年の鳴潮祭は11月11日（金）～13日（日）に行われる予定です。さて、今年のメインテーマは…



に決定しました！！

このテーマは、今回行われる鳴潮祭が28回目ということと、本学がある高島の地でたくましく生きる私たち鳴教生（強者）をかけあわせて「28（つわ）もの」という言葉をつくり、鳴潮祭が「ぽぽぽぽ～ん！」と溢れんばかりの笑顔でいっぱいになるようにという思いを込めて考えたものです。

さて、みなさんはこの“鳴潮祭”に対してどのようなイメージや意気込みを持っているのでしょうか？1年生は今年が初めての大学祭ですね。まだはっきりとしたイメージはないと思いますが、「かくし芸」を始めとする企画の数々で活躍してくれることを願っています。4年生の方々は、中には実習期間と重なっている方もいるかもしれませんが、そのパワーとこれまでの経験に基づく知識を与えてくださることを期待しています。2年生、3年生の方々は2回目、3回目の鳴潮祭となるので、「今年も楽しみ！」「忙しくなりそうだなあ」

「今年はどんな企画をするんだろう」「頑張るぞ～！」など、ひとりひとりが鳴潮祭に対して様々な捉え方をしていると思います。

現在、私たち実行委員会では、今年度も楽しい鳴潮祭となるよう、日々奮闘して企画・準備を進めています。これまで実行委員を経験したことのある先輩方からアドバイスをいただきながら、鳴潮祭ならではの企画を計画しています。

しかし、この鳴潮祭は、私たち実行委員だけでなく、高島の強者であるみなさんで作り上げていくものです。そのため、これからみなさんにも様々な面で協力してもらいたいと思いますが、みんなで力を合わせて、思い出に残る素晴らしい大学祭にしましょう！

そして3日間の鳴潮祭ではたくさんの笑顔を咲かせましょう！！

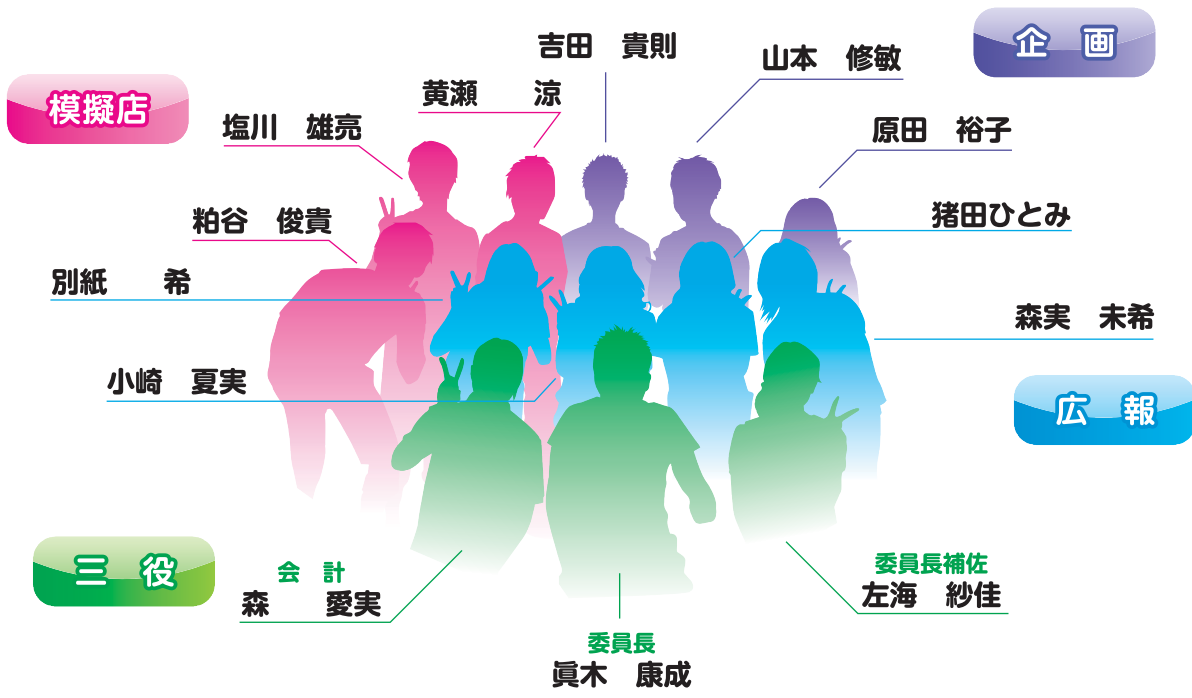
〈学部・小学校社会 2年〉



# もうすぐ 大学祭

ここで、今年度の鳴潮祭実行委員の紹介をします！この13人のメンバーはもちろん、1年生の実行委員44人の力も借りながら、第28回鳴潮祭の成功に向けて、日々みんなで準備に励んでいます。仕事はスポンサーの依頼まわりやゲーム・ライブの企画、大道具の制作など多岐にわたって取り組んでいます。まだまだ頼りない13人ですが、努力を惜しまず精一杯頑張りたいと思いますので、みなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

## 第28回鳴潮祭実行委員13人



# 熱戦 第62回四国地区大学総合体育大会

第62回四国インカレが、愛媛大学を主管大学として松山市内各会場で開催されました。

本学からは14種目に18団体総勢235人（男子154人、女子81人）の選手団、その他関係者が参加し、熱い戦いを繰り広げました。

## <成績>

総合 男子第9位（前回第7位）、女子第9位（前回第9位）

種目別（3位以上） ラグビー準優勝

バスケットボール（女子）準優勝

水泳（女子）第3位

硬式野球第3位

剣道（男子）第3位

個人等（3位以上）【水泳】 金澤 健司 男子50m自由形第1位、200m個人メドレー第2位

上田 裕貴 女子50m平泳ぎ第2位

福良祐香子 女子100mバタフライ第1位、50mバタフライ第2位

山崎 美穂 女子200m背泳ぎ第2位

女子200mメドレー第3位、400mリレー第3位

【陸上】 廣田愛実里 走高跳第1位

伊藤 希望 走幅跳第1位、200m第2位、100mH第2位

## <結団式>

大会に先立ち、6月16日（木）本学選手団の結団式が行われました。

合唱団“tadpole”の協力により学歌を全員で斉唱した後、学長から団長そして旗手へと団旗が授与されました。

学長はじめ団長の激励のことばを胸に、代表者が力強く決意宣言をしました。

選手団団長 大石雅章副学長

決意宣言 山口 友誠（水泳部主将）

旗手 岡野 勇貴（サッカー部主将）

学歌斉唱協力 合唱団“tadpole”

壮行会進行協力 学生会



# 熱戦

# 第62回四国地区大学総合体育大会

## <壮行会>

結団式の後、食堂で壮行会を行い、各チーム代表から大会に向けた決意が発表されました。



## <競技開始>

いよいよ試合。勝っても負けても全力を尽くせ！  
笑顔も涙も、明日につながる糧となる。



熱戦

# 第62回四国地区大学総合体育大会



熱戦

# 第62回四国地区大学総合体育大会



# 課外活動 サークル紹介

## Let's アカペラ!!

皆さん、こんにちは。アカペラ同好会です。

今年の7月に、アカペラが大好きな学部1年生が集まって、発足しました。発足したばかりなので、具体的な活動はまだできていませんが、大学祭に出演させてもらったり、某テレビ番組の予選に挑戦したいと考えています。

ところで、皆さん。アカペラってどのようなものかご存知でしょうか。アカペラとは、曲の主旋律を歌うリードボーカル、それを支えるコーラス、ベース、ボイスパーカッションのそれぞれのパートに分かれて、本物のバンドさながらの音を奏でるというものです。お笑い芸人のネプチューンが司会をする某TV番組の人気によって、今やアカ

### ◆ アカペラ同好会『共鳴』 千葉 晃 平

ペラの人気は全国区です。かく言う僕もその番組を見てアカペラをやりたいと思い、このアカペラ同好会を立ち上げました。

アカペラや、ヒューマンビートボックスに興味のある方!!アカペラ同好会にはいつてみませんか?学部生, 院生問わず, メンバー募集中です!!

<学部・小学校社会 1年>



## 男も女もフットサル

ダブルエフシー

WFCは、今年4月に設立したフットサルサークルです。

私たちは、7月18日に「第1回 WFC～鳴教フットサル大会～」を開催しました。今大会は、初心者や女性もフットサルを楽しめる“エンジョイ MIX 大会”でした。



(第1回 WFC～鳴教フットサル大会)

### ◆ WFC 渡 辺 到

WFCとしては初めての運営で、不手際などもありましたが、たくさんの人に参加いただき、盛大に第1回を終えることができました。第2回も開催したいと思いますので、よろしくお願いします。

WFCはいくつかのチームが集まって構成されているため、活動は各チームで行っています。全体で活動することもあります。授業の空きコマに活動することが多いです。

みなさん、空きコマがあるときや暇なとき、体育館を覗いてみてください。活動していたら気軽に声をかけてください。ぜひ、一緒にフットサルを楽しみましょう。

<学部・中学校技術 3年>

# 課外活動 News

## 阿波踊りサークル いざ本番へ！

徳島にぞめきが響きわたる8月、阿波おどり本番です。ここ高島の地からも、熱い渦の中に飛び込んでいく一団がありました。鳴門教育大学阿波踊りサークル「めいきょうれん鳴響連」。

8月10日（水）本学講堂で学内公演を行い、その勢いで鳴門市阿波おどりへと繰り出していきました。その後、12日から15日まで行われた徳島市阿波おどりに3日間参加し、若さ溢れる踊りを披露しました。

外国人留学生も多く所属する同サークル、この本番に向けて練習に取り組んできました。その成果を存分に発揮し、徳島の魅力を体感できた模様です。



## ダンスサークル N. S. D & 創作ダンス部 コラボレーション

7月25日（月）昼休みに、ダンスサークル N.S.D と創作ダンス部によるコラボレーション公演が行われました。これまで、N.S.D は単独公演として体育館で行ったことはありますが講堂での公演は初めてです。大舞台に慣れている創作ダンス部の協力を得て、100人を超えているであろう観客の前で、スポットライトを浴び、楽しく踊りました。



## 新入生勧誘活動



まだ入学式終わらないかな～



新入生の手にはピラが次々と…

4月、各学生団体は一人でも多くの新入部員を獲得しようと、懸命にPRを行います。

各自無理のない範囲で積極的に活動し、充実した学生生活を送ってください。

※課外活動は諸法令及び学内諸規則等により一定の制約を受ける場合があります。



# 鳴門教育大学は創立30周年を迎えました

平成 23 年 10 月 1 日（土）鳴門教育大学は創立 30 周年を迎えました。

これを記念して、学術講演会、記念モノメントお披露目式を執り行い、併せて、同窓会との共催事業『全国学校教育実践活動顕彰事業「平成 23 年度教育実践活動コンテスト」』の表彰式を行いました。

そのほか、「鳴門教育大学 30 周年記念誌」を発行しました。

## 学術講演会

本学元教授でもあり、2010 年秋に文化勲章を受章された協田晴子（わきた はるこ）先生をお招きして『私の歴史学遍歴—中世の商業・能楽・女性—』と題した学術講演会が行われました。

当日は、本学講堂に詰めかけた、150 人余の学生、卒業・修了生、教職員が熱心に耳を傾けていました。

## 教育実践活動コンテスト表彰式

鳴門教育大学と同窓会との共催で『全国学校教育実践活動コンテスト』を企画、広く公募を行い、10 月 1 日に審査結果の発表及び表彰式が執り行われました。

表彰された方は次のとおりです。おめでとうございます。

- 最優秀賞 白崎美砂子 教諭（福井県福井市立一乗小学校）
- 優秀賞 梶本 幸 教諭（徳島県鳴門教育大学附属小学校）
- 優秀賞 清水 美穂 教諭（徳島県吉野川市立牛島小学校）
- 奨励賞 石川 和義 教諭（徳島県名西郡石井町立高浦中学校）

## 記念誌発行

30 周年を記念して「鳴門教育大学 30 周年記念誌」を発刊しました。

鳴門教育大学の歴史を知ることのできる貴重な資料です。

この記念誌は、附属図書館に置いてありますので、ぜひ一度ご覧になってください。



▲記念誌



◀▲学術講演会



▲コンテスト表彰式





# 鳴門教育大学は創立30周年を迎えました

## ◀ 創立30周年記念モニュメント ▶

30周年を記念して、附属図書館北側に、本学教授 長岡 強先生制作の記念モニュメント『黎明』が設置されました。

モニュメント《黎明》



### 「幸福が跳んでくる」

モニュメントの周りに植えられている「サルコッカ・コンフサ」という低木の花言葉です。

春に芳香のある小さな白花を咲かせ、秋には黒い実をつけます。

## ■■■■■ モニュメント《黎明》について ■■■■■

この度、創立30周年記念モニュメントを制作する機会を与えて戴き感謝致しております。ブロンズ像「黎明」は、附属図書館北側の植木の間で、大学会館側に向かって設置されています。制作意図は、「輝かしい次の時代への始まり」の象徴であります。

ブロンズ像は、高さ193cmで、直径150cmの白御影石の上に、直径60cm高さ70cmの赤御影石がはめ込まれ、その上にブロンズ像が取り付けられています。赤御影石の正面中央には、第五代学長 高橋 啓先生の書による題字「黎明」が彫りこまれています。

今回の制作にあたっては、人体に宿る内なる生命感、躍動感、澆刺さに加えて、鳴門教育大生の気質を何とか表現出来ないものかと、学生たちに思いを寄せながら制作しました。

このブロンズ像で、学生たちに、なにがしかの夢を与えられることになればと願っております。

ブロンズ像の表面は青銅色をしていますが、これから月日が経つにつれ、深みのある色に変容し、重厚さも増していくものと思います。これからの本学の末永き発展と学生たちの活躍を見守ってくれるものと思っております。

### 〈制作者紹介〉

長岡 強 (ながおか つよし)

鳴門教育大学芸術・健康系教育部 (芸術系コース (美術)) 教授

今秋、東京国立新美術館で開催される第43回日展 (日本美術展覧会)

彫刻部門の審査員を務める。

## ◀ 大学の応援旗 ▶

30周年を記念して、鳴門教育大学同窓会から新しいデザインの応援旗2種類をご寄付いただきました。大会等に参加する際は、ぜひご利用いただき、勝利を目指してください。

もちろん、おなじみの旗も健在です。これらは全部体育館の中に吊してあるのでご覧ください。(利用申込は学生課学生生活支援チームまで)





## 30周年おめでとうございます

◆ 学生会会長 吉浦早紀

鳴門教育大学創立30周年おめでとうございます。このような節目の年に在学し、原稿を書かせていただくことができうれしく思っています。30年の中で様々なことが伝統として確立したり、よりよくするために変化したりしているだろうと想像されますが、学生会も学生のみなさんにより学校を楽しんでもらったり多くの人に鳴門教育大学や学生会の活動を知っていただいたりするためにいろいろと活動しています。

たとえば、8月初旬にはサマースクールという小学校に行って子供たちとふれあう活動をしたり、3月に学生会が主催で卒業記念パーティーを開催したりしています。形は少しずつ変わってきていますが、学生会の伝統行事として何年も引き継いで行われていることです。それとは逆に、かき氷大会は3年前頃にこんなイベントがあればもっと楽しんでもらえるだろう、学生同士で交流できるだろうと考え始めたものです。

30年前というと私は生まれてもいませんが、その頃の関係者の方々、在学していた大先輩方が作ってきたものを大事にし、さらに10年後、20年後の後輩に伝えられるように私たちもそれをより良くしながら大学生活を送りたいと思っています。

〈学部・中学校国語 3年〉



かき氷大会

## 記念すべき年に

◆ 院生会会長 中村竜介

こんにちは。まず、自己紹介をさせていただきます。今年度、院生会会長を務めさせていただいている、生活・健康系コース（保健体育）の中村竜介です。出身は福岡県で京都産業大学を卒業し、大学院に入学しました。

入学したての右も左もわからない状態の私が、突然、院生会会長に任命されるという事件が起きた春。正直、不安でいっぱいでした。しかし、前年度の会長さんや院生会役員をはじめとする皆さんに助けられながら、私でも何とか半年やってきております。今年度、創立30周年を迎える本学。先生方や先輩方の築いてこられた伝統を守りつつ、学部生・院生ともに本学の発展のために、日々を楽しみ、一生懸命過ごしています。

この記念すべき年に本学に改革的なものを起こしてやろうという野望を抱いています。（全くの白紙状態ですが…）

私のような未熟者には、皆さんの協力が必要で

す。これからも院生会会長として、一生懸命頑張っていけますので、院生会の更なる発展のためにご支援・ご協力のほど、よろしくお願いします。

〈院・生活・健康系コース（保健体育）1年〉



（新しい友人とキャンプ。  
院生会で何かイベントを、と会議中?! 筆者は左）

# 健康手帳

## 飲酒と健康の諸問題

◆ 心身健康センター所長 廣瀬政雄



お酒は嗜好品であり、緊張を解き陽気な気分にして人間関係に良い効果をもたらすこともありますが、不適切な飲み方をすれば、健康を損ねるだけでなく、社会的問題を引き起こすこともあります。今回は飲酒と健康の諸問題について考えてみたいと思います。

アルコールの代謝は、摂取後、胃および小腸上部で吸収され、1～2時間で吸収されます。分解も速やかに行われ、肝臓と筋肉で順に分解されます。飲酒後の血中濃度は30分～2時間後がピークです。アルコールの分解速度は個人差が非常に大きいことが知られています。体への影響は摂取量により異なります。短時間に大量を摂取すると、血中濃度に応じて麻酔薬のような効果をもたらす、運動機能の麻痺や意識障害をおこし、最悪の場合には呼吸停止や心停止となり死亡することもあります。急性アルコール中毒と言われる病態です。

過量の飲酒を長期間続けていると、アルコール依存症に陥り、飲酒をコントロールできなくなると、健康、仕事あるいは家族関係に問題が起きてきます。人格変化のほか、幻覚や妄想などのさまざまな精神症状が出現するようになります。依存症がうつ病の原因になることもあり、その逆もあります。自殺者の2割がアルコール依存だということです。体格とホルモンの違いにより、女性の方が依存症に陥る危険性が高いと言われています。依存症に対する治療は主に心療内科で行われており、薬物が用いられることもあります。このほか、アルコールは全身の臓器に作用し、多くの病気の原因になり、既存の病気を悪化させます。特に肝障害、膵臓炎、胃腸炎などの消化器疾患あるいは生活習慣病の原因となり、その結果、心臓と脳などの血管病変の原因になり、生命予後を著

しく悪化させます。

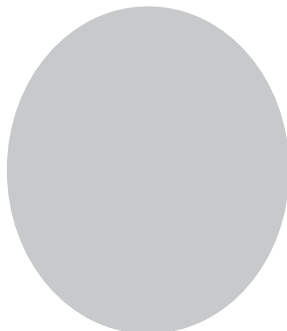
厚生労働省が主導している「21世紀における国民健康づくり運動」である「健康日本21」では飲酒は重点9項目の1つになっており、達成されるべき3つの目標が設定されています。それらは、1) 多量飲酒問題の早期発見と適切な対応、2) 未成年者の飲酒の根絶、および3) アルコールと健康についての知識の普及です。多量飲酒とは1日平均純アルコールで60グラム以上の飲酒と定義されています。一方、節度ある適度な飲酒とは、1日約20g程度の飲酒（ビールなら350ml、清酒なら1合）とされています。

未成年者の飲酒は成長期の体の発育に悪い影響があり、脳神経細胞に対する傷害作用のほか、アルコールの分解が遅いことから急性アルコール中毒と依存症に陥りやすいといわれています。また、一気飲みなど、勢いよく飲み過ぎて行動抑制が効きにくくなり、事故や犯罪につながりやすいなどの特徴があります。当然ながら、妊娠中の飲酒は少量でも胎児の発育に悪い影響があります。

酒を愛し、詩に詠んだ詩人として、わが国では大伴旅人や山上憶良が知られています。中国では李白、杜甫、白樂天が有名です。『新唐書』には李白が酒に酔って船に乗っている時、水面に映る月を捉えようとして船から落ち溺死したとの伝説が載っています。また、中国古代の史書『漢書』には「酒は百薬の長」との記述もあり、お酒を薬として使っていたこともあったようです。現代では、少量（適量）のアルコールは循環器疾患を予防し、HDL（善玉）コレステロールを増加させることが知られています。適量を守り、アルコールの良い面を健康に役立てるようにしたいものです。

# ようこそ鳴門へ～新任教職員の横顔～

## ◆ 人文・社会系教育部（言語系コース（国語））教授 小島 明子



このたび、ご縁があって本学に奉職いたしました小島明子と申します。赴任して早くも半年、なんとか新しい環境に馴れつつあり、鳴門の海洋性気候のよさ、

人のあたたかさを実感しています。

私は、上越教育大学の近くの新潟県新井市（現：妙高市）で生まれ育ち、大学・大学院時代を京都

で過ごし、岡山県にある川崎医療福祉大学に16年在職した後、本学に参りました。前任校は私立の医療系の大学でしたので、本学とは学風がまったく異なりますが、それ故にかえって新鮮な視点から本学への提言ができることもあろうかと考えています。今後、日本の古典文学に関わる研究を一層深めつつ、よき学生を育てるために尽力したいと願っています。

## ◆ 基礎・臨床系教育部（授業実践・カリキュラム開発コース）准教授 阿形 恒 秀



昨年度まで30年間、大阪府の高等学校に勤務し、社会科教諭・教頭・指導主事・校長として教育実践・教育行政・学校経営に携わってきました。十数年前に修士課程で学ばせていただいた

鳴教との新たにご縁を本当に嬉しく思っています。院生時代に部員として活動し、今回顧問となったタッチフットボール部のチーム名「BIG EDDY」

は鳴門の渦潮に因んだものですが、EDDYには「渦」だけでなく「流れを変える」という意味もあります。本学の教職大学院で学ぶ先生方にとって、鳴門での2年間がご自身の教師としての物語の大切な節目となり、また、現場に戻られたら周囲の先生方を巻き込んで学校全体の流れをリードしていくような教師力を身につけてくださるよう、精一杯、取り組んでいきたいと考えています。よろしく願いいたします。

## ◆ 自然・生活系教育部（国際教育コース）准教授 石坂 広 樹



4月から国際教育コースに教員として赴任した石坂広樹と申します。専門は教育政策・教育調査です。これまで中南米に7年間在住し、同地域の研究・調査に

取り組んで来ました。また、仕事としては、日本大使館で働いた後、広島にある大学に所属し教育にも取り組みつつ、国際協力機構（JICA）の専門

家として中南米・アフリカ地域における教育協力に取り組んできました。

国際教育コースでは、ICT教育や教材開発に取り組むとともにJICAの教職員研修を担当しています。海の近くに住むのは初めてですが、鳴門はとても環境がよく過ごし易い地だなと感じています。この地にてこれまでの研究・教育の成果を存分に発揮したいと考えています。

# ようこそ鳴門へ～新任教職員の横顔～

## ◆ 自然・生活系教育部（自然系コース（数学）） 准教授 坂井 武 司



4月から自然系コース（数学）に着任致しました坂井武司と申します。これまで、神戸市の公立小学校で12年間、神戸大学附属小学校で3年間、小学校教諭

として勤務してきました。

その中で、子供のつまずきを考慮し、理論と実践を結び付けた授業改善に取り組んできました。

特に、算数科においてつまずきの多いと言われる「割合」について研究をしています。

これまでの教育現場での経験と教育実践研究の成果を生かし、授業実践力のある教員の育成に精一杯勤めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



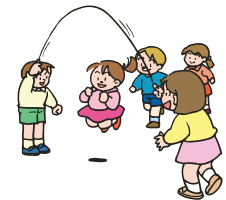
## ◆ 基礎・臨床系教育部（教員養成特別コース） 准教授 端 村 達 也



今年4月より、教職大学院教員養成特別コースに着任致しました、端村達也と申します。昨年度までは、主に鳴門市内の公立小学校に勤務しておりました。学

校生活を通して、子どもたちに主体的・自律的な行動力を身に付けさせるとともに、たくましく「生きる力」をはぐくむことを目指し取り組んできま

した。これからは、将来先生となるスーパールーキーのみなさんが、深い知識と確かな実践力を修得して、希望と自信に満ちた教職生活をスタートできるよう精一杯支援したいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



## ◆ 人文・社会系教育部（現代教育課題総合コース） 講師 田 村 和 之



4月から現代教育課題総合コースの講師として、環境教育を担当しております田村和之です。横浜で生まれてからアメリカと日本を点々と移動して、鳴門に来

る前はアメリカのアリゾナ州立大学で天文学（観測宇宙論）の研究者として働いていました。

学生時代には物理学に人類学（考古学）、そして

天文学など様々な分野の勉強をし、今回新たに「環境教育」という分野にチャレンジすることになりました。とても楽しみです。アメリカと日本での経験を生かし、様々な視点から考える環境教育の創造に努めたいと思っています。そして、日本の教育に新しい風を吹き込むような教員を養成して行きたいと考えております。精一杯勤めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 小 学 校

## 子どもたちの心をはぐくむ野外学習

◆ 附属小学校 加藤 由 恵

夏休みを目前に控えた7月中旬は、子どもたちが楽しみにしている野外学習・宿泊学習の季節です。体験的な活動を通して子どもたちの心をはぐくむために、本校が毎年実施しているものです。

今回は、2年生の月見ヶ丘海水浴場での野外学習の様子をご紹介します。

「冷たい。」「海の水ってしょっぱいね。」眩しい陽射しの中、嬉しそうに海に入っていく子どもたちの元気な声が響きます。波打ち際で波に乗って遊んだり、海辺の生き物や貝殻を一生懸命探したり、また、砂浜でダイナミックに砂遊びを楽しんだり、子どもたちは、色々に試行錯誤しながら、自分のしたいことを実現していきます。

そんな子どもたちを保護者代表の方々が優しく見守り、安全面でのサポートをさせていただきます。

友達を思いやる気持ちは、学級の枠を超えた心

の触れ合いによりさらに深まりました。感謝の心は、保護者の方々に心を込めてお礼を言うことでいっそう育ちました。また、海辺の生き物とかかわり、命を大切にする気持ちも強くなりました。

このように、体験的な活動を通して、子どもたちの豊かな心をはぐくまれ、実りの多い野外学習・宿泊学習になっています。



## 中 学 校

## 近隣保育園児と共に避難訓練

◆ 附属中学校 大 泉 計

本校では毎年9月に、地震または火災を想定した避難訓練を実施してきたが、3月11日の東日本大震災の後、津波警報発生時の避難経路の見直しをし、5月26日に実施した。今回は近隣の助任保育園からも、訓練の申し出があり合同で実施した。

徳島市沿岸に大津波警報が発令されたという想定で、本校の最上階である4階へ全校生徒が避難した。生徒と教職員合わせて約500名が5分以内にスムーズに移動が完了した。保育園児は園から本校まで、徒歩で5分で到着した。

今回の訓練を振り返ってみると、避難そのものは順調にできたが、4階だけだと避難場所がほぼ満杯である。近所の方々の避難を考えると、避難スペースに不安が残る。また、今回は実施時間の関係で保育園からは、5歳児のみの参加であったが、すべての園児が避難してきた場合は、中学生

のヘルプが必要になることが予想されるが、その訓練はできていない。そのうえ、一夜を明かすために必要な非常食や、停電・断水などへの早急な対応も必要で、これらは大学の支援のもとに進めていきたい。減災すなわち、常の心構えや事前準備が人的および物的被害を最小限に食い止められるという、東日本大震災から学んだ教訓を生かして、防災マニュアルや避難訓練も様々なケースを想定して改善をすすめていきたい。



## 特別支援学校 本校の運動会について

今年度は、5月22日（日）に運動会を実施しました。本校では、運動会の実施にあたり、学校全体の目的を受けて学部ごとに目標を設定しています。

小学部では、「自分なりの方法や手がかりを用いて集団活動に参加することができる」「競技内容を理解して自分なりの見通しをもって参加することができる」ことを目標とし、その目標に沿って児童一人一人の目標設定や、手だての検討を行いつつ練習を重ねました。

徒競走では、児童が一人で完走できるよう「ゴールをわかりやすく示す」「コースにロープを張り、ロープにとおしたバトンを持って走るようにする」などの工夫をしました。その結果、全員が、落ち着いて、かつ一人で完走することができました。

またサーキットでも、順番や順路がわかりやす

### ◆ 附属特別支援学校 郡 俊 恵

いよう視覚的に表示をしたり、平均台・カラートンネル・キャタピラなどの用具に工夫を加えたりした結果、児童全員が自立的にスムーズな参加ができました。

小学部児童が落ち着いて、かつ主体的に行事に参加するためには、個々の状況に応じた細かいステップ・配慮が必要です。集団参加への積み重ねが、将来の社会参加へと繋がっていくように、そして何よりも子どもたちが主体的に活動に参加できるように一人一人に応じた指導・支援を積み重ねていきたいと思えます。



## 幼稚園 ゆうべのつどい・宿泊保育を経験して

### ◆ 附属幼稚園 松 尾 剛 志

7月、日常では体験できない夜の幼稚園を楽しむことを主なねらいとして、「ゆうべのつどい」と「宿泊保育」を行いました。

5歳児が、「おばけやしき」「くじびきや」などの夜店や夕食の豚汁づくりなどの企画を練り、役割を分担しながら、ゆうべのつどいの準備を進めていきました。はじめのうちは意見がぶつかり合うこともありましたが、相談を重ねる中で目標をもって友達と協力し合う姿が見られるようになってきました。ゆうべのつどいの企画、運営を自分たちに任されていることに喜びや責任を感じながら、次第に活動意欲も高まってきました。

そして、いよいよ当日、お客さんとしてやってきた3歳児や4歳児に「いらっしやいませ」「こちらから好きなのを選んでください」などと優しくていねいな口調でリードし、もてなすことができ

ました。

夕食後には、阿波踊りや花火をしました。5歳児は皆で幼稚園に泊まる経験もしました。友達と寝食をともにしたことは大きな自信となったようで、翌朝の子どもたちの表情は自信にあふれ、充実感が伝わってきました。

幼児たちは様々な課題や葛藤を乗り越え、友達とともに達成感や充実感を味わい、ひとまわり大きく成長したようです。このような成長の場面に立ち会うことの喜びを感じています。





## 台北市立教育大学表敬訪問と日本留学フェア参加記



(台北市立教育大学キャンパス)

今回、本学を代表して、台湾の高雄市と台北市で開催されました日本留学フェアに参加するとともに、新しく大学間交流協定締結校となった台北市立教育大学を表敬訪問する機会を得ました。出発日が超大型と言われた台風6号接近と重なり、予定どおり出発できるかどうか心配されましたが、それも全くの杞憂で、台風一過、予定通り7月21日(木)に関西空港を旅立ち、その日の午後には台北市に到着しました。翌22日(金)はまず台北市立教育大学を表敬訪問。同大学国際交流担当のCindy Liさんにわざわざホテルまで大学の公用車で迎えに来て頂き、大学に到着。今回の表敬訪問では、あいにく林天祐学長は体調不良ということでお会いすることはできませんでしたが、徐榮崇教授、詹偉佳教授、藍瑋琛教授、謝俊義教授と今後の交流の進め方について和やかな雰囲気の中で歓談することができました。当初、本年の10月から本学に留学することになっている学生さんも会合に加わって頂ける予定でしたが、あいにく大学の他行事と重なり今回の会合には参加できないとのことでした。国際交流の進め方に関する協議は管理棟2階の会議室で行われました。そこには、大学の歴史を物語る様々な写真や資料等が展示しており、台北市立教育大学の歴史について詳しい説明をお聞きすることもできました。それによると、創設は1896年で、最初は台湾在留の日

◆人文・社会系教育部(言語系コース(英語))

教授 伊東 治 己

◆自然・生活系教育部(生活・健康系コース(技術・工業・情報))

教授 宮 下 晃 一

本人家族の子ども達のための学校としてスタートしたとのこと。そのためか、会議室の壁に歴代の学校長・学長の写真が掲げてありましたが、初期の学校長はすべて日本人校長でした。

台北市立教育大学での協議会終了後、新幹線で高雄市へ移動。中国での新幹線事故の直後でしたが、移動は実にスムーズでした。日本の新幹線のシステムが採用されている関係で、実に心地よい鉄道での移動となりました。

翌23日(土)はホテルからタクシーで5分ほどのところにある時代会館で開催された日本留学フェアに参加しました。日本から50を超える大学や専修学校が参加しており、10時の開館後まもなく会場は日本への留学を希望する台湾の学生達の熱気に包まれました。この熱気は、翌24日(日)に台北のランドマーク的存在となっている台北101ビルに隣接する台北世界貿易中心で開催された日本留学フェアにも受け継がれました。本学は教員養成を主眼としている関係で、留学希望学生の我がブースへの来訪は他の総合大学と比べると少なくなると予想されましたが、高雄会場では10人、台北会場では15人、計25人の留学希望者が本学のブースを訪れてくれました。人数は少な目でしたが、いずれも本学留学の熱意は熱く、本学への留学を真剣に考えてくれるものと思います。なお、高雄会場でも台北会場でも元留学生の皆さんにご協力をいただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

(文責：伊東 治己)



(台北市立教育大学での協議会)



(日本留学フェア高雄会場にて)



(日本留学フェア台北会場にて)





## 留学体験記 —タイ王国 コンケン大学留学報告—

◆ 学校教育研究科 吉住 晃

はじめに：

正直私は過去の留学経験から結構柔軟性はある方だと思っていましたが、今回タイへの留学を通し、そこではすぐに対応できない場面がたくさんありました。「うわっ衝撃的だなあ」というただただショックなこともあり、分かり合えた時のあの何とも言えない感動もあり、この2面を頻繁に体で味わえることが、留学の醍醐味だと思います。

普段の生活から：

キッチンの無いアパートが多く、外食（屋台など）が主流でしたが、2つ程変わった光景を目にしました。1つ目はビジネス（餌を買って与える）として起用されていた賢い象が食事中目の前を通り過ぎることがたびたびありました。2つ目は小さな子どもが手作りの飾り物などを売るために店に入ってくることでした。こちらもビジネスが絡んでおり、小さな村からこのような形で町へ出てお金をもらうという行為はバンコクなど大きな都市では当たり前に見ることができる光景だそうで、驚きました。複雑な心境と過酷な経験を小さな子どもが経験しないとイケないとは正直ショックでした。これも象の例と同じく、買う人がいるので、無くならないサイクルというわけです。



(コンケン大学の卒業式)



タイの大学で：

コンケン大学院の英語科で3クラス受講しましたが、クラスメイトは常に英語で話し、タイ人の先生方も授業はすべて英語で行っていました。正しい発音で正しい文法で話さないと恥ずかしいということはなく、自分の意見を伝えようとする姿勢が皆にありました。もちろんタイ語がたまに使われる時もありましたが、私が理解できない時は学生か先生か誰かが必ずとっていい程英語で説明してくれましたから、そのまま流されたり無視されたりはしませんでしたので、少しもマイノリティが経験する心細い気持ちになることはありませんでした。タイは「Land of Smiles」と良く聞いていましたが、気遣いとリラックスの調和がとれたまさにぴったりなフレーズだと感じています。タイ全体では確かにリラックスしている感覚がありましたが、この英語科での学生に対する期待度は非常に高く、「英語で」学習することに対する各自の目標や情熱に驚かされました。「どこの国へ留学するのか」ということだけでなく、自分の目的に合った場所選びやプログラム選びに重点を置くことも大事になってくるのだと今は感じています。

〈院・言語系コース（英語）2年〉



## THE HIDDEN TREASURES OF NARUTO

### 鳴門の秘宝

◆ 学校教育研究科 Chinomba Enoch (マラウイ)



My journey to discover the hidden treasures of Naruto started one morning on December 17, 2009 when I got news that I had been accepted to pursue my further studies at NUE in Naruto, Japan. It was an exciting moment however on the other hand I was abit worried of what type of place Naruto would be to me.

The morning of March, 31, 2010, I raised my eyes over the window of my hotel room in Naruto city only to be greeted by chilly, nice and cool breeze coming from the nearby sea with beautiful blue waters and beautiful mountains and it was at this moment that I felt the warmth and peace of Naruto. As I walked down to the bus stage, on the way to NUE, I met people with smiling faces looking at me, people who could not utter any word to me but upon looking at the writings on their faces one could easily tell that I was warmly welcomed and accepted in Naruto. Leaving the environmental beauty of Naruto aside let me talk about what I am referring to as Hidden Treasure of Naruto –'The beauty of Inside'. What I mean is the inside beauty of people in Naruto ranging from the NUE professors, the support staff of NUE, the students as well as the entire people in the Naruto community.

From the word go, we have never lacked support in terms of assistance from NUE professors, the

professors are always there for us, they are like our colleagues yet they are far much distanced away from us in all aspects, in most cases we mix and share ideas together, we even share a drink together at times, which, if I may say, is a myth or a taboo in our respective countries to have such an opportunity to brush shoulders with your academic supervisors. Coming to members of support staff at ISO as well as all other NUE departments, amazing; they are like mothers and fathers to us, in other words, they are like eagles fearlessly protecting with passion their newly born chicks from vultures; they are always concerned about our welfare. Talking about students, well, they are all over us helping and assisting us in everything; in the dormitories, library, in the labs etc.

Finally the community surrounding us is very supportive in so many areas ranging from arranging extra Japanese lessons for us, school visits, awa odori activities, giving us directions when lost in the streets of Naruto city, just to mention a few. With all these and many not mentioned, I convinced myself, beyond any reasonable doubt, that this unique character of people in Naruto is a special treasure that probably very few people around the world are aware about.

This place and its people can be a model to many societies and communities around the world where people can learn how to make an individual feel more than at home miles away from home. Naruto has indeed proven to me that the world is indeed a small global village whereby we need to act locally but think globally.....!

As my days of stay in Naruto are numbered, my life is filled with sorrow and sadness; my eyes are dimmed with thick tears, because for certain I will miss this beautiful place with so much Hidden Treasures coming from inside the people's hearts

# 国際交流



rather than from the outside. Thank you so much NUE Director, professors, staff members, students and the entire people of Naruto community for making a **Difference** in promoting this idea of global village; you are not just preaching it but you are doing it...

**You are a Living example and We are the Living Witnesses.**

私の鳴門の秘宝探しの旅は、2009年12月17日の朝、鳴門教育大学への留学決定の知らせを聞いたときに始まりました。それはワクワクする一方で、これから始まる鳴門での生活を不安に感じた一瞬でもありました。

2010年3月31日の朝、滞在していた鳴門市内のホテルの窓から外をのぞくと、美しい青い海や山々からの冷たく心地よい風が私を温かく迎えてくれ、鳴門の温かさを感じました。鳴門教育大学行きのバス停に向かう途中、すれ違った人々は私と言葉こそ交わしませんが、向けられた笑顔で、鳴門に受け入れられたのだと感ずることができました。目に見える鳴門の美しさはさておき、タイトルにもある“鳴門の秘宝”について話したいと思えます。－内面の美しさ－つまり、大学の教職員の皆さんや学生の皆さんを含むすべての鳴門の人々の心の美しさです。

入学当初から常に先生方には同僚の一人のように（もちろん先生方はあらゆる面で私たちからとても遠い存在ですが…）手厚く支えていただいております。私たちのアイデアをシェアすることもあります。ある時は一緒に飲むことさえあるのですが、このように指導教員と肩を並べることは私の国ではタブーとされています。国際交流チームをはじめ、他の職員の方々も私たちの父や母のような存在でありいつも私たちのことに気を遣ってくれています。別の言葉で言い換えると、勇猛果敢にハゲワシから生まれたばかりの雛を守る親ワシのようなものでしょうか。学生の皆さんは、寮や図書館、研究室などあらゆるところで手助けをしてく

れます。最後に地域の皆さんですが、さまざまなことにとっても協力的で、その一部を挙げると、日本語のレッスン、小学校での交流、阿波踊りそして私が道に迷った時には助けてくれます。今挙げたこと以外に他にもたくさんあり、おそらくほとんどの人は気づいていないかもしれませんがこういった鳴門の人たちのユニークなキャラクターこそが秘宝であるということに、疑いの余地がありません。ここ鳴門と鳴門に住む皆さんは、人々が遠く離れた場所でどうやって故郷以上にアットホームに感じることができるかを学ぶ場所として世界中の様々な社会や地域でモデルとなる存在だと思います。この世界は、足下から行動して地球規模で考える、一つの小さな村（グローバル・ビレッジ）ということを鳴門が証明してくれました。

鳴門での滞在期間も残り少なくなり、それを思うと毎日の生活が悲しみでいっぱいになります。外面からではなく内面、人の心からなるたくさんの“秘宝”が詰まったこの美しい場所を去ることを寂しく思い、目は涙でかすんでしまいます。すべての鳴門の皆さん、グローバル・ビレッジという一つの考え方を説いているだけでなく、実践してくれてありがとうございます。

皆さんは生きる手本であり、私たちはその生き証人です。

〈院・国際教育コース 2年〉



# 国際交流



# 国際交流



## 平成23年度 外国人留学生現員表

平成23年10月1日現在

種別 国名	修 士			学 部			教員研修			研 究 生			特別聴講学生			科目等履修生			計			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
ア ジ ア	タ イ			0			0			0			0	3	3			0	0	3	3	
				0			0			0			0		0				0	0	0	0
	インドネシア		2	2			0		1	1			0		0			0	0	3	3	
				0			0		1	1			0		0			0	0	1	1	
	フィリピン			0			0		1	1			0		0			0	0	1	1	
				0			0		1	1			0		0			0	0	1	1	
	韓 国		1	1			0			0			0	1	1			0	0	2	2	
			0			0			0			0		0			0	0	0	0		
中 国		5	12	17			0		0	8	6	14	2	1	3			0	15	19	34	
				0			0		0			0		0				0	0	0	0	
		1		1			0		0			0		0				0	1	0	1	
ラ オ ス				0			0					0		0			0	0	0	0	0	
				0			0					0		0			0	0	0	0	0	
台 湾				0			0					0	1	1			0	0	1	1		
				0			0					0		0			0	0	0	0	0	
中 近 東	アフガニスタン		1	1			0		0			0		0			0	0	1	0	1	
					0			0		0			0		0			0	0	0	0	0
ア フ リ カ	ガ ー ナ		1	1			0		0			0		0			0	0	1	0	1	
					0			0		0			0		0			0	0	0	0	0
	マ ラ ウ イ		1	1			0		0			0		0			0	0	1	0	1	
ル ワ ン ダ		1		1			0		0			0		0			0	0	1	0	1	
				0			0		0			0		0			0	0	0	0	0	
大 洋 州	フ ィ ジ ー		1	1	2			0		0			0		0			0	1	1	2	
					0			0		0			0		0			0	0	0	0	0
	サ モ ア			1	1			0		0			0		0			0	0	1	1	
ソ ロ モ ン				0			0	1	1			0		0			0	0	1	0	1	
				0			0	1	1			0		0			0	0	1	0	1	
計		11	17	28	0	0	0	1	2	3	8	6	14	2	6	8	0	0	0	22	31	53
		0	0	0	0	0	0	1	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3

兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科（博士課程）：  
鳴門教育大学配属

種別 国名	博 士			研 究 生			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
ア ジ ア	韓 国		1			0	1	0	1
			1			0	1	0	1
	中 国			0	1	1	0	1	1
				0		0	0	0	0
計		1	0	1	0	1	1	1	2
		1	0	1	0	0	0	1	0



合 計		
男	女	計
23	32	55
2	2	4

備考：下段は、国費留学生で内数

## 社会規範について

大学には、中学校・高校の校則のような細かなルールはありません。それは大学の一員として、また、社会の中の一員として自覚と責任に任されているということです。

行動する際には、善悪の判断をもってしっかり行動できるようにしてください。分からなければ確認しましょう。犯罪を犯して、「大学生だから」「知らなかった」といって許されるものではありません。刑事罰や大学の懲戒処分が課せられます。

一人の身勝手な行動、無責任な行動が大きな波紋となり、周囲に損害や精神的苦痛を与える結果となります。

鳴門教育大学の一員として、みなさんの責任ある行動を期待します。

### ●交通規則の遵守…免許取得時に学んだことをもう一度思い出してみよう！

飲酒運転、信号無視、ノーヘルメット等はもちろん違反です。

例え近距離であったとしても守るべきルールです。

### ●窃盗…他人の物を盗る、店の商品をレジを通さず持って帰る、置いてある他人の自転車を勝手に乗り回す等は、大学の内外を問わず犯罪行為です。

### ●飲酒…未成年は禁止されています。未成年に飲酒をさせてもいけません。

酔って周囲に迷惑をかける行為(悪ふざけ、暴言・暴力、ハラスメント、その他器物損壊等)もやめましょう。飲酒は適度な量を心掛けてください。

## 附属図書館特別展示「描かれた近世阿波の風景」



附属図書館では、学内教職員、学生等への読書啓発活動の一環として、附属図書館特別展示「描かれた近世阿波の風景」を行います。

附属図書館では、庶民層における地理的資料を近世以降現代まで収集することに努めて来ました。その中から、今回、近世の地図、風景画に絞って公開

しています。「阿波国絵図」「阿州十郡図」「阿波渭津城絵図」「阿波鳴門之風景」等です。特に阿波鳴門之風景は「東海道五十三次」で有名な初代歌川(安藤)広重が死没1年前に発表したものです。

また、図柄は鳴門市文化会館の緞帳にも使われており、鳴門教育大学関係者及び鳴門市民にはよく目にした方も多いと思います。

この機会にぜひ、附属図書館へ来てご観覧ください。

# 環境活動 (エコアクション21) - 省エネルギー対策元年 (H23年度) -

## エコアクション21とは・・・？

環境方針に基づき、環境活動計画を設定し、省エネ、省資源、ゴミ削減等に、本学の教職員及び学生が一体となり **自主的・積極的**に取り組むことです。



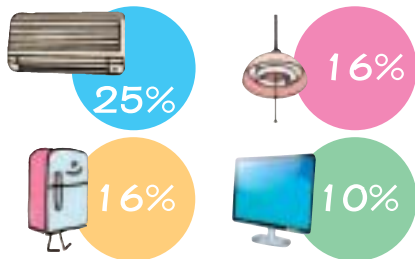
- ① 使用していない箇所の**照明**は気づいたら、消そう！
- ② **エレベーター**の使用を控えよう！
- ③ **節水**しよう！
- ④ **紙**は両面印刷，裏面の再利用をしよう！
- ⑤ **ゴミ**は分別し，必要でない物は持ち込まないようにしよう！

大学の1年間CO<sub>2</sub>排出量は、**1,480,125kg**  
(H22年度)だよ。

**大学ホームページも要チェック！** <大学案内→法人情報→環境への取り組み>  
<http://www.naruto-u.ac.jp/information/08/014.html>

**大学や家庭でも実践！！** ☆あなたができることを今日から実践してみよう☆

	環境への取り組み	年間CO <sub>2</sub> 削減量	年間節約金額
エアコン	●夏の冷房時の設定温度は28℃を目安にしよう。 ドア・窓の開閉は少なく、扇風機を併用し、風が体に当たるようにすると涼しく感じます。	10.6kg	670円
	●冬の暖房時の設定温度は19℃を目安にしよう。 厚手のカーテンを使用することが効果的です。	18.6kg	1,170円
照明	●人のいない部屋の照明はこまめに消そう。 照明のかさやカバーの掃除でも明るさがアップします。	6.9kg	430円
テレビ	●テレビを見ないときは消そう。 消すときは主電源をオフにすると待機電力を節約できます。	5.3kg	330円
パソコン	●パソコンを使わないときは電源を切ろう。 使うときだけ電源を入れるよう心がけましょう。	11.1g	690円
洗濯	●洗濯するときは、まとめて洗うようにしましょう。 洗濯機の容量に合わせて、洗濯回数を少なくすることが効果的です。	2.1kg	3,950円
風呂	●シャワーはこまめに止めるように気をつけよう。 不必要に流したままにすることはやめましょう。	29.1kg	3,170円
車	●自動車の代わりに徒歩・自転車・バス・電車を利用しよう。 目的地が近い場合、なるべく自動車は使わないようにしましょう。	144.9kg	5,720円
	●発進時に、ふんわりアクセル「eスタート」をしよう。 5秒間で20km/h程度の加速を心がけると、十分な効果が生まれます。	194.0kg	11,110円
その他	●電気製品は、使わないときは主電源を切り、コンセントからプラグを抜こう。 待機電力のカットを心がけましょう。	42.2kg	2,490円
合 計		464.8kg	29,730円



家庭での消費電力の**約7割**は、**エアコン、冷蔵庫、照明器具、テレビ**の4つに使われています。(エアコンは冷房より暖房の方がより多くの電力を消費します。)消費電力の大きな機器の使い方に気をつけることもポイントです。



**エコ活動を率先している個人・クラス・サークル等教えてください！！**  
また、エコ活動その他環境に興味がある人も、メール連絡下さい。  
本部棟3階 施設課 E-mail [sikikaku@naruto-u.ac.jp](mailto:sikikaku@naruto-u.ac.jp) まで



## ～学生相談窓口紹介～



不安…、やる気が起きない…、人間関係で悩んでいる…、一人で、悩まないで誰かに話しを聞いてもらいましょう。相談の秘密は厳守しますので、自分が相談しやすい窓口を気軽に利用してください。お話を伺って、より適切な相談窓口の紹介も行います。



### 【心身健康センター【本部棟1階】

#### \*身体面について相談したいとき

けがや病気など身体のことでの心配がある人は、健康相談が受けられます。必要に応じて、検査や応急の治療を行います。当センターで対応できない場合、医療機関に紹介します。

- 日 時：月～金曜日 10時～16時
- 担当医師：廣瀬政雄（心身健康センター所長）

#### \*心理面で相談したいとき

不安や悩みなど、心理的なことでの心配がある人は、心理相談が受けられます。

修学上または生活上の問題を初めとして、どんな小さな問題や心配ごとにも心おきなく相談を受け、解決への糸口を見いだしてもらうことを願っています。

- 要 予 約：心身健康センター 088-687-6631
- 日 時：本学担当教員への相談：随時  
カウンセラーへの相談：水・木曜日（12時00分～17時00分）

### 【学生総合相談室（本部棟1階・学生課学生生活支援チーム）

主として学生の修学・研究等学生生活の相談を行っています。少しの疑問や、どこに質問したらいいかわからない時など、気軽に利用してください。

- 相談の受付：面接、手紙、電話（088-687-6118）、メール（gakusei@naruto-u.ac.jp）
- 担 当 者：アドバイザー（本学教員5人）又は事務職員

※メールで申し込みをされる場合は、必ず学籍番号、氏名等を明記してください。

### 【ピア・カウンセリング（人文棟4階）

「ピア（peer）」という言葉は、「仲間」という意味で、本学のピア・カウンセリングは、大学院生が学部学生の学習・生活上における悩み解決を支援する学生相談制度です。鳴教大の先輩であり、カウンセリングの基礎を学んでいる大学院生が相談にのってくれます。専門の教員がバックアップしますので、安心してご利用ください。

相談したい場合は、第2心理テスト室（人文棟A 409）前に設置の「ピア・カウンセリング相談BOX」に相談用紙（BOX横）を投函してください。

### 【その他の相談窓口 履修、就職のことなど、分からないことは、とにかく聞いてみよう！

- 教務課（本部棟1階）…修学（履修、単位取得、教員免許状、教育実習等）に関する相談
- 就職支援室（講義棟1階）…教員採用試験及び就職活動に関する相談、指導
- ハラスメントに関する相談員…詳細は大学WEBに掲載

(TOP>教育・学生生活>キャンパスライフ>ハラスメントについて)



# 行事予定

平成23年度後期

行事等	
共通	10月1日(土) 創立記念日(30周年)
	10月3日(月) 授業開始
	10月10日(月) 「後期履修登録」締切
	10月11日(火) ~ 10月17日(月) 後期履修登録変更期間
	11月11日(金) ~ 11月13日(日) 大学祭・学生表彰表彰状授与式
	12月26日(月) ~ 1月7日(土) 冬期休業
学部	1月下旬(土) サークル・リーダーシップ・セミナー
	3月16日(金) 学位記授与式、学生表彰表彰状授与式、溝上賞授与式
	10月17日(月) ~ 10月30日(日)のうち10日間 施設実習(2年)(鳴門こども学園等)
	10月24日(月) ~ 10月28日(金) 特別支援教育観察実習(4年)(附特別支援)
	10月25日(火) ~ 10月26日(水) 3年次生合宿研修
	10月30日(日) ~ 11月11日(金) 副免教育実習(4年)(附小・中)
	10月31日(月) ~ 11月11日(金) 特別支援教育実習(4年)(附特別支援、国立特別支援)
	12月17日(土) ~ 12月24日(土) 集中講義
	1月31日(火) 「卒業研究」提出締切
	2月27日(月) ~ 3月2日(金) 後期試験期間
修士	3月3日(土) ~ 3月31日(土) 学年末休業
	11月30日(水) 1年次生(長期履修2年)「学位論文計画書」提出締切
	11月30日(水) 2年次生(長期履修3年)「学位論文計画書(変更届)」提出締切
	12月17日(土) ~ 12月24日(土) 集中講義
	1月20日(金) 2年次生(長期履修3年)「学位論文」提出締切
専門職	3月1日(木) ~ 3月31日(土) 学年末休業
	1月20日(金) 2年次生「最終成果報告書」提出締切

- 入試関係行事**

  - 学部推薦(I型) 11月20日(日)
  - 大学入試センター試験 1月14日(土)~15日(日)
  - 学部推薦(II型) 1月24日(火)
  - 学部入試(前期) 2月25日(土)~26日(日)
  - 学部入試(後期) 3月12日(月)
  - 大学院入試(後期) 12月3日(土)
- 学生会主催行事**

  - クリスマス・イルミネーション 11月末~12月
  - 卒業記念パーティー 3月16日(金)
- 院学生会主催行事**

  - ソフトボール大会 11月19日(土)

## 学生生活実態調査へのご協力をお願いします!

11月初旬に「鳴門教育大学学生生活実態調査」を実施します。  
学部・大学院生全員が対象となりますので、ご協力をお願いします。

調査の流れ

クラス担当教員

指導教員

配付  
→  
←  
提出

学部学生

大学院生

◆調査票に記入し封筒に入れて、配布された教員に提出してください。  
 ◆調査票から個人が特定されることはありません。

11月16日(日)までに提出

※詳細は就職支援室で確認してください。

## 就職支援行事予定

- 3年次生合宿研修 ..... 10月25日(火)~26日(水)
- 大学院生就職研修会 ..... 11月5日(土)
- 教採対策ガイダンス(基礎編) ..... 11月9日(火)~2月22日(火)毎週水曜日  
(ただし、11/23、12/28、1/4除く)
- 教採対策ガイダンス(論作文編) ..... 11月30日(火)、1月11日(火)
- 就職ガイダンス(企業) ..... 11月9日(火)
- 就職ガイダンス(公務員) ..... 11月16日(火)、2月8日(火)
- 就職ガイダンス①~⑤ ..... 11月9日(火)、11月16日(火)、12月7日(火)、12月8日(水)、1月18日(火)、1月25日(火)
- 教採実技ガイダンス(集団討論) ..... 11月26日(土)
- 本学出身教職関係者との情報交換会 ..... 2月4日(土)
- 教採実技ガイダンス(模擬授業・個人面接) ..... 2月18日(土)
- 教員採用模擬試験 ..... 3月3日(土)

## 編集後記

学園だより第64号をお届けします。  
今回の編集では、3月の東日本大震災によって呼び起こされた私たちの想いを、特集として書き残しておかなければならないと思いました。また、今年度は、鳴門教育大学の創立30周年という節目の年度となりました。大学の外と内で起こった大きな出来事を見つめながら、私たち一人一人のこれからのあり方を考えるときのように思います。  
投稿にご協力くださった方々に感謝申し上げます。(MN)

